

3. 各チームの編成と活動内容

2/4

3組 (35名) (報告者:待鳥)	活動ゾーン等 W(C)ゾーン&山田道(B) &Y(A)ゾーン	チーム編成 土井先生、待鳥、藤原文、仲村、岡崎 (道満)	活動時間 9:30~12:00
活動概要			
行程 学校→W (C) ゾーン→体験学習 3 「カブトムシの幼虫を観察してその一生知る」 →体験学習 2 「植物に関心を持ちビンゴゲームする為の植物名を知る」 →体験学習 1 「自然体感・森の声など昔の生活の痕跡を調べる」 →Wゾーン (C) →学校			
活動内容			
体験学習1 :山田道に入ると静寂な森、その雰囲気を感じましょう。森の音(野鳥せせらぎの音など)森の匂い(空気感)、疎水(小川)あり。その小川は山田川一木津川一明石川に合流。昔はこの疎水は飲料・生活用水、田谷上に通じている山田道境界は約80年前までは生活圏、谷上周辺の人々(村人)が整備・再生して生活に利用。川添えの山地は主食である米作りの田圃が段々畑にして生産していた。また、現在はガス・電気でも生活を支えているが 昔は樹木を薪・炭として煮炊きもの用や暖房として、樹木の油も利用、住居の材料も全て樹木や草を活用。疎水の周辺を見ると、檜材、杉林・檜林・桜材・椿林など植樹して管理していた。各々に樹木は場所を決めて植樹されている。つまり自給自足の生活を支えていた痕跡が残っている。そこを環境			
体験学習3 人間が生きていくに必要な物が自然の中で循環していること(物質循環)。落ち葉がこの箱にいっぱいありますが落ち葉の形は少しづつ崩れています。それはカブトムシの幼虫やミミズやカビやバクテリアが食べます、その者たちが「地球の掃除屋さん」、つまり小動物(猪、鹿、小鳥、昆虫類)や枯れ木・落ち葉を無機物に分解して水に溶け植物の養分(食べ物)となります。地球上のエネルギーの流れは生産・消費・分解の三つで成り立つ。大切な事:植物がなくなったら動物(人間)は生きていけない事(死滅)。 カブトムシは・・ 産卵から成虫になって1年くらいの一生涯、その間10ヶ月間は腐葉土の中で暮らしそれをお腹いっぱい食べます。やがて成虫になって元気よく大空に飛び立ちますが、2か月で死滅するが、その間メスは30個ほどの卵を産みその一生涯を終える。			
体験学習2 W~Y森林浴しながら里山林確認と植物説明一参考:かがやきの森(3HR)には約130種数あり。 植物: コガクウツギ・ハナイカダ・ヒノキ・ヒサガキ・アベマキ・リョウブ・コシアブラ・ヤマツツジ・コバノミツバツツジ・コウヤボウキ・アセビ・タカノツメ・梅など ※ 展望台:記念撮影。周辺環境、遠望の丹生山脈眺望。 ※ 環境体験学習終了後、担任教師が学校へ引率。			

